

- 2 モダン横須賀&神奈川
- 3 命を守って厄をよけ
- 4 船の安全航行の守り

市民記者がつくる

発行所：神奈川新聞横須賀支社 〒238-0004 横須賀市小川町21-9 TEL.046(822)2020 FAX.046(823)3845 ✉yokosuka@kanagawa-np.co.jp

第44号

平成27(2015)年11月1日発行

横須賀日日新聞 第44号  
2015年11月1日

あなたが地域の主人公 7

テーマ：シニアの力  
(定年後デビューへの準備を)

※許可を得て掲載しています。

### あなたが地域の主人公 7

3年前、生涯学習センターの館長・渡辺孝夫さんから電話があった。「ボラセンさんと3者で情報交換会を開きませんか？」という内容だった。市民活動サポートセンターはNPO支援を行う中間支援施設だが、社協が運営するボランティアセンター、生涯学習センターとは日ごろから広報協力

### シニアの力

をしてきたので、すぐに毎月の定例会が始まった。そこで共通の課題として団塊の世代が動いてくれない、NPO、ボランティアの高齢化などが話題にのぼった。では一緒にやろうと話はずぐにまとまり、シニアにとって再雇用も課題だろうとシルバー人材センターにも加わってもらい「ひくてあまたのお父さんプロジェクト」がスタートした。

第一回は郷土史家・山本詔一さんの基調講演とシニアに向けた協力企画40が集まった。好評で、すぐに第2回を企画した。基調講演はさわやか福祉財団の堀田力さん。たまたま市が企画していた介護予防講演会と日程がかぶり、協議の結果、「生涯現役フォーラム」と名付けて共催のダブル講演会になった。

定年退職後の男性にターゲットを当てたのは、彼らの「定年鬱」や地域社会からの孤立化が社会問題になった背景がある。NHK「クローズアップ現代」で

### 定年後デビューへ準備を

男性が定年後の社会参加で注意することとして、自慢話、威張る、派閥づくり、女性蔑視、雑用を頼むなどが挙げられていた。たしかに一理ある。

ことはプロジェクト名を「ひくてあまたプロジェクト」に変更した。これは女性の定年退職世代も増えるし、限定する必要はないとの判断からだ。女性に比べて男性が定年後に孤立を深める現状に変わりはない。

込むのだ。メリットは話題作り、定年からの準備、そして会社もこれを認める、いや推奨する点が大きいという。



「生涯現役フォーラム」で講演する堀田力さん  
2014年11月29日、県立保健福祉大学

堀田力さんは講演の中で「定年前から準備が必要なので」と強調されていた。その手法として「名刺両面大作戦」を推進している。働いている時から名刺の裏側にボランティア活動の内容を書き

ことしも11月28日に横須賀市と民間4団体の共催で「生涯現役フォーラム」が行われる。会場は県立保健福祉大学に全面協力いただいた。11月から12月にかけて行われる「ひくてあまた月間」と名付けた協力企画も70を超え規模が拡大した。横須賀に限らず地域の活性化はこのシニア世代の活躍にかかっている。

(横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋 亮)